

2022年度・公式規則変更内容・決定報 (全 19 頁)

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



アメリカンフットボール公式規則を以下のように変更します。

[1] 2022年度・公式規則変更主要項目の解説は、今年の公式規則変更を解説したものです。

[2] 2022年度・主な編集上の変更項目の解説は、今年の主な編集上の変更を解説したものです。

[3] 2022年度・公式規則変更は、本年度変更される条文を掲載したものです。

この公式規則変更は2022年秋季公式戦より適用します。

[1] 2022年度・公式規則変更主要項目の解説

2022年度の公式規則変更主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2022～2023の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇一章一条」を表します。

(1) ボールがデッドとなる条件の変更(スライディングの開始を装うプレーヤー)

☆ 従来、ボール キャリアが明らかに足からスライディングを開始した地点でボール デッドとなることが規定されていた。

★ 本年より、ボール キャリアが足からスライディングを装うあるいは開始するふりをした場合もその地点でボール デッドとなる。 (4-1-3-r 変更)

(2) フェア キャッチのシグナルを出したプレーヤーによる不正なブロックの反則に対する罰則の変更

☆ 従来、フェア キャッチのために有効なまたは無効なシグナルをし、ボールにタッチしなかったプレーヤーによるブロックまたは接触の反則に対する罰則は 15 ヤードであった。

★ 本年より、上記の反則に対する罰則は 10 ヤードとなる。ただし、パーソナル ファウルを伴う場合は 15 ヤードの罰則であり、ひどい反則者は退場または資格没収となる。 (6-5-4 罰則 変更)

(3) 当初の無資格レシーバーによる不正なタッチの反則に対する罰則の変更

☆ 従来、当初の無資格レシーバーによる正当なフォワード パスへの不正なタッチの反則に対する罰則は、プレビアス スポットから 5 ヤードであった。

★ 本年より、上記の反則に対する罰則は、プレビアス スポットから 5 ヤード、かつロス オブ ダウンを伴う。 (7-3-11 罰則 変更)

(4) 後半のターゲティングの反則による資格没収に対する検証の規定の追加

☆ 従来、インスタント リプレーを採用する試合において、後半に発生したターゲティングの反則がビデオ レ

ビューによって確認(コンファーム)された場合、次の試合の資格没収の妥当性に対する試合終了後のビデオによる検証は認められていなかった。

- ★ 本年より、インスタント リプレーを採用する試合においても、採用していない試合と同様に、競技団体等の事前合意により、以下の対応ができる。後半に発生したターゲティングの反則に対して、当該チームが所属する競技団体は、当該試合担当の審判組織にビデオを提供し、その審判組織のビデオによる検証によって、次の試合の資格没収の妥当性を確認することができる。その検証の結果、審判組織がそのプレーヤーを資格没収とすべきではなかったと判断すれば、その場合のみ、競技団体は出場停止を取り消すことができる。
(9-1-3 および 4 罰則 追加)

(5) 腰より下へのブロックの規定の変更

☆ 従来、キックを除くスクリメージ ダウンにおけるチーム確保変更前の A チームのプレーヤーは、いくつかの制限のもとで、タックル ボックスの中だけでなく外側であっても、ニュートラル ゾーンから 5 ヤードまでの位置に限り、相手の正面の方向からの腰より下へのブロックが許されていた。

キックを除くスクリメージ ダウンにおけるチーム確保変更前の B チームのプレーヤーは、ニュートラル ゾーンの前後 5 ヤードでサイドラインまで延長されたエリアのみで、相手の正面の方向からの腰より下へのブロックが許されていた。

★ 本年より、キックを除くスクリメージ ダウンにおけるチーム確保変更前の腰より下へのブロックの規定は以下のとおりとなる。

a. チーム確保変更前の A チームのプレーヤー

1. 最初の位置が完全にタックル ボックスの中に入っているラインマンは、スナップ直後のチャージで、タックル ボックスの中で正当に腰より下へのブロックをしてもよい。このとき、ニュートラル ゾーンから 1 ヤード越えた地点まででブロックを開始したときは、タックル ボックスの中とみなす。スナップ直後のチャージの後、これらのラインマンはボールがタックル ボックスから出るまでの間、タックル ボックスの中で最初の接触が相手の正面の方向からの場合に限り、腰より下へのブロックをしてもよい。
2. スナップ時にタックル ボックスの中で静止しているバックは、ボールがタックル ボックスから出るまでの間、タックル ボックスの中で最初の接触が相手の正面の方向からの場合に限り、腰より下へのブロックをしてもよい。
3. その他のすべての A チームのプレーヤーは腰より下へのブロックをしてはならない。

b. チーム確保変更前の B チームのプレーヤー

1. タックル ボックスをスクリメージ ラインから 1 ヤード越えた地点まで拡張させた領域に入っていて、スナップ時に静止している B チームのプレーヤーは、スナップ直後のチャージでタックル ボックスの中で正当に腰より下へのブロックをしてもよい。
2. その他のすべての B チームのプレーヤーは、ボール キャリアに対する場合を除き、腰より下へのブロックをしてはならない。
(9-1-6 変更)

(6) スポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則の変更

☆ 従来、フリー キック プレーまたはニュートラル ゾーンを越えたスクリメージ キック プレー中の A チームのプレーヤーによるスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則は明確ではなかった。また、正当なフォワード パス プレー中の B チームのプレーヤーによるスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則は、プレビアス スポットから 15 ヤードであった。

★ 本年より、以下のとおりとなる。

フリー キック プレーまたはスクリメージ キック プレー中の A チームのスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則は、プレビアス スポットから施行する。ただし、フリー キック プレーまたはニュートラル ゾーンを越えたスクリメージ キック プレー(フィールド ゴール プレーを除く)中の場合は、プレー後のデッド ボールが B チームに所属する地点からも施行できる。

正当なフォワード パス プレー中の B チームのプレーヤーによるスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則は、最後のラン エンドがニュートラル ゾーンを越え、かつそのダウン中にボール確保の変更がない場合、最後のラン エンドから 15 ヤードとなる。パスが不成功、インターセプト、あるいはダウン中にチーム確保の変更があった場合、罰則はプレビアス スポットから 15 ヤードとなる。

(9-2-1-a-1 罰則 変更)

(7) ディフェンスによるホールディングと手または腕の不正な使用の反則に対する罰則の変更

☆ 従来、ディフェンスによるホールディングと手または腕の不正な使用の反則に対する罰則は、10 ヤードまたは 15 ヤードで、パス プレーでいくつかの条件がそろった場合のみ、自動的な第 1 ダウンとなっていた。

★ 本年より、ディフェンスによるホールディングと手または腕の不正な使用の反則に対する罰則は、他の公式規則に抵触しない限り、10 ヤード、かつ自動的に第 1 ダウンとなる。 (9-3-4-c~e 罰則 変更)

注：2022年度・公式規則変更予定報における[1]2022年度・公式規則変更予定主要項目 (1) 必要な装具の規格については、今年度は変更しない。

[2]2022年度・主要な編集上の変更項目の解説

2022年度・主要な編集上の変更項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2022~2023の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇章一条」を表します。

(1) ジャージに付けてもよい項目に、チームに関係する都道府県または市町村の名前を追加

☆ 従来、ジャージに付けることが許される項目に、チームに関係する地域名は含まれていなかった。

★ 本年より、ジャージに付けることが許される項目に、チームに関係する都道府県または市町村が含まれる。ジャージに付けることが許される他の項目に変更はない。 (1-4-5-a 変更)

(2) 記念章の大きさの変更

- ☆ 従来、ユニフォームまたはヘルメットに1つだけ付けることができる、故人あるいは災害等を追悼する記念章は、2.25 平方インチ(14.5 cm²)以内と規定されていた。
- ★ 本年より、上記記念章の大きさは、16 平方インチ(103 cm²)の大きさ以内となる。 (1-4-6-d 変更)

(3) コーチング ブースの広さと場所の条件明確化、コーチングのための伝達手段の制限の明確化

- ☆ 従来、プレス ボックスとチーム エリアの間を結ぶ音声での伝達手段のみの使用が許可されていた。このような伝達手段の発信元は競技団体が定める場所とし、定めがない場合には両 20 ヤード ラインをスタジアムの最上段まで延長した範囲内のスタンドからとしていた。コーチングを目的とした他の伝達手段は、どこであっても許可されなかった。
- ★ 本年より、上記に加え、両チームのコーチング ブースの大きさはほぼ同じとしなければならない、コーチングを目的とした他の伝達手段は、競技場外(リモート等)でも許可されないことが明記される。 (1-4-11-b 変更)

(4) フリー キックでのキック ティー使用時の条件明確化

- ☆ 従来、ティーを使用する場合、ボールとグラウンドとの距離のみが規定されていた。
- ★ 本年より、ティーを使用する場合、上記に加え、ティーがボールと接触していなければならないと規定される。 (2-16-4-b 変更)

(5) パスの姿勢のプレーヤーを無防備なプレーヤーに追加

- ☆ 従来、無防備なプレーヤーは、公式規則 2-27-14-a および 9-1-4 注 2 に例示されていた。
- ★ 本年より、無防備なプレーヤーの例のひとつである、ボールを投げようとしている、あるいは投げ終わった直後のプレーヤーに、パスを投げようとしてダウンフィールドに集中しているパスの姿勢のオフenseのプレーヤーも含まれる。 (2-27-14-a および 9-1-4 注 2 変更)

(6) 10 秒減算のまとめを追記

- ☆ 従来、10 秒減算の適用については、関連する項目ごとに記載されていた。
- ★ 本年より、10 秒減算が適用される項目がまとめて記載された。 (3-4-5 新規)

(7) 空中でボールをつかんでキャッチとなった場合の前進地点の明確化

- ☆ 従来、いずれかのチームの空中にいるパスのレシーバーが、相手に押し戻された後で、インバウンズでキャッチに成功し、ボールはキャッチした地点でデッドを宣告された場合、前進地点はプレーヤーがボールをレシーブした地点であると規定されていた。
- ★ 本年より、いずれかのチームの空中にいるパスのレシーバーが、相手に押し戻された後で、インバウンズでキャッチに成功し、ボールはキャッチした地点でデッドを宣告された場合、前進地点はプレーヤーがボールの継続的な支配を始めた地点であると規定される。 (5-1-3-a 変更)

(8) フリー キックのボールの位置を変更できる条件の明確化

- ☆ 従来、レディ フォー プレーのシグナルの後にタイムアウトが宣告された場合は、フリー キックのボールの位置を変えることができた。
- ★ 本年より上記に加えて、一度キックされた後に再度キックを行う場合も、ボールの位置を変えることができると規定される。(6-1-2-a 変更)

(9) ファンブルが静止した後のサクシーディング スポットの規定の変更

- ☆ 従来、ファンブルがインバウンズで静止し、誰も取ろうとしない場合、ボールはデッドとなり、デッド ボールの地点でファンブルをしたチームに所属すると規定されていた。
- ★ 本年より、ファンブルがインバウンズで静止し、誰も取ろうとしない場合、以下のとおりとなる。
 1. ファンブルした地点より前方で静止した場合、ボールはファンブルした地点でファンブルしたチームに所属する。
 2. ファンブルした地点より手前で静止した場合、ボールはデッド ボールの地点でファンブルしたチームに所属する。なお、バックワード パスの場合に関する規定に変更はない。(7-2-5 変更)

(10) 不正なブラインド サイド ブロックのシグナル追加

- ☆ 従来、不正なブラインド サイド ブロックの反則を示すシグナルは、パーソナル ファウルの S38 のみであった。
- ★ 本年より、不正なブラインド サイド ブロックの反則を示すために、レフリーは、S38 を示した後に、S28 を行う。(9-1 罰則、公式フットボール シグナル 追加)

(11) ヘルメットのクラウンの規定の変更

- ☆ 従来、「ヘルメットのクラウン」とは、フェイスマスク上端より上の部分であると規定されていた。
- ★ 本年より、「ヘルメットのクラウン」とは、ヘルメットの上部、すなわち、ヘルメットの頂点から半径 6 インチ (15cm) の円形の部分と規定される。(9-1-3 変更)

(12) スクリメージ キックにおけるキッカーの保護が終了する条件の追加

- ☆ 従来、スクリメージ キックにおけるラフイングおよびランニング イントゥ ザ キッカーによるキッカーの保護は次の場合に終了すると規定されていた。
 - (a) 自分の身体のバランスが戻るのに十分な時間の経過後。
 - (b) キッカーが、キックの前にタックル ボックスの外側にボールを持ち出した後。
- ★ 本年より、上記に加え、キッカーが、キックの前にタックル ボックスの外側でボールを確保した後もキッカーの保護は終了する。(9-1-16-a-4 変更)

(13) インスタント リプレーにおけるゲーム クロックを修正する規定の変更

- ☆ 従来、ゲーム クロックの修正は、判定を変更(オーバーターン)し、その結果、ゲーム クロックが前半の

残り時間 2 分未満あるいは後半の残り時間 5 分未満となる場合に限ると規定されていた。

- ★ 本年より、ゲーム クロックの修正は、判定を変更(オーバーターン)し、その結果、ゲーム クロックが前半の残り時間 2 分未満となる場合に限ると規定される。 (12-3-6-b 変更)

[3]2022年度・公式規則変更

本年度変更される条文は次のとおりです。この公式規則変更は2022年秋季公式戦より適用します。記載は、次の規則に従っています。

- ① 「篇一章一条」の後の(新規)、(追加)、(変更)、(削除)、(移動)は()内の事項が行われた事を示し、それに続く規則文は新変更文である。なお、新規、追加、変更の各用語は次の原則で使用する。
- 新規: 篇一章一条、あるいはその下位の項目の単位で、新規に条文が定められた場合。
- 追加: 文の単位で新たに条文が定められた場合。
- 変更: 一つの文の中で、条文の変更(単語等の追加を含む)が定められた場合。
- なお、新規、追加、変更、削除等が混在する場合は、変更として扱う。
- ② 下線部は、変更、追加が行われた場合にその部分を示す。

1-4-5-a-2 (変更) ジャージにはプレイヤーの番号以外に、以下のものを付けることができる。

プレイヤー名

チーム名

チームに関する都道府県または市町村の名前

マスコットの名前

袖のストライプ

チーム章、競技団体の標章、マスコットのマーク、試合の記念章、追悼の標章

チーム章、競技団体の標章の一部としての卒業認定または学術認定の印

チーム キャプテンを示すための「C」の文字

1-4-6-d-1 (変更) 故人あるいは災害等を追悼する記念章は、16 平方インチ(103 cm²)以内であれば1つだけユニフォームまたはヘルメットに付けてもよい。

1-4-11-b (変更) プレス ボックスとチーム エリアの間を結ぶ音声での伝達手段のみの使用が許可される。このような伝達手段を発信する場所(コーチング ブース)は競技団体が定める場所とする。コーチング ブースの広さと場所は、ホーム チームとビジティング チームでほぼ同じとし、場所は通常のプレス ボックス エリア内とすべきである。プレスボックスの広さが十分でない場合、音声の発信元は両20ヤード ラインをスタジアムの最上段まで延長した範囲内のスタンドからとする。コーチングを目的とした他の伝達手段は、競技場外も含みどこであっても許可されない。

1-4-13 (変更) レフリー用通信装置

- a. 試合進行上の伝達のために、レフリーがマイクロフォンを使用することを強く要望する。このマイクロフォンは、襟につけるタイプであることを強く要望する。マイクロフォンは、レフリーに

よって操作が可能でなければならず、それ以外の場合にオンになってはならない。他の審判員によるマイクロフォンの使用を禁止する。

- b. 試合を担当している審判員、インスタント リプレー担当者、および審判組織の特定の関係者に限定された(セキュリティが保証された)無線装置(いわゆる O2O システム)の使用は認められる。

- 2-16-4-b (変更) ティーとは、キッキングの目的でボールを持ち上げるものである。ティーは、ボールの最下端がグラウンドから1インチ(25mm)より離れてはならない。(A. R. 2-16-4- I) ティーを使用する場合、キックが正当であるためには、ティーがボールと接触していなければならない。
- 2-27-14-a (変更) ボールを投げようとしている、あるいは投げ終わった直後のプレーヤー。これにはパスの姿勢でダウン フィールドを注視しているオフENSEのプレーヤーを含む。
- 3-2-4-c-6 (変更) フリー キックを除き、Bチームに第1ダウンが与えられた場合
- 3-4-5 (新規) 10秒減算のまとめ
10 秒減算が適用されるのは以下の項目である。
a. 負傷者のためのタイムアウト(参照:3-3-5-f)
b. ヘルメットが脱げた場合のタイムアウト(参照:3-3-9-b)
c. 反則(参照:3-4-4)
d. インスタント リプレー(参照:12-3-6-c)
- 3-5-3-c (変更) Bチームは、オフENSE チームのフォーメーションに対応するために、一時的に12人以上のプレーヤーがフィールドにいてもよいが、スナップされたときに12人以上いてはならない。このような場合、ライブ ボール中の反則として扱う。(A. R. 3-5-3- I ~VII)
- 4-1-3-r (変更) ボール キャリアが明らかに足からスライディングを開始した場合。ボール キャリアが足からのスライディングを装うあるいは開始するふりをした場合、その地点でフィールド上の審判員によってボール デッドが宣告される。(A. R. 4-1-3-IIIおよびIV)
- 6-1-2-a (変更) フリー キック フォーメーション時のボールは、ハッシュ マーク上またはその間の、Aチームの制限線上から正当にキックされなければならない(例外:6-1-2-c-4)。レフリーは、キッカーがボールを受け取った後、全審判員が用意できたときに、レディ フォー プレーを宣告する。レディ フォー プレーのシグナルの後は、タイムアウトが宣告された場合、あるいは一度キックされた後に再度キックを行う場合のみ、ボールの位置を変えることができる。
- 6-3-13 (変更) キックをキャッチする機会の妨害(参照:6-4)を除く、ボールがニュートラル ゾーンを越えたスクリメージ キック プレー中(フィールド ゴールの試みを除く)のキック チームによるすべての反則に対する罰則は、公式規則により、施行基準点としてのプレビアス スポットから施行してダウンを繰り返すか(例外:Aチームのエンド ゾーンでの反則に対する罰則はセーフティとなる。)、あるいはプレー後のデッド ボールがBチームに所属する地点からの施行をBチームが選択する。(A. R. 6-3-13- I ~III)

- 6-5-1-b (変更) Bチームのプレーヤーが有効なフェア キャッチのシグナルをした場合、フリー キックやスクリーン キックのキャッチの保護は、キックをマフしたが、まだキックをキャッチする機会のあるプレーヤーにも継続される。もしこのプレーヤー(あるいはBチームの別のプレーヤー)がその後キックをキャッチした場合、ボールはこのプレーヤーが最初にボールにタッチした位置でBチームの所属となる。この保護はキックがグラウンドにタッチしたときに終了する。(A. R. 6-5-1- I および II)
- 6-5-4 罰則(変更) フリー キックの場合:反則地点から10ヤードでレシーブ チームのボール。[S40]
スクリーン キックの場合:ポストスクリーン キックの施行で10ヤード。[S40]
ただし、この行為がパーソナル ファウルを伴う場合は15ヤードの罰則。ひどい反則者は退場または資格没収。
- 7-1-6-a (変更) 身体のすべてがニュートラル ゾーンを一度も越えていないAチームのバックは、他のバックに対して、両者がスクリーン ラインの手前にいる場合に限りボールを前方へ手渡してよい。
- 7-2-5 (変更) ボールの静止
- a. バックワード パス:バックワード パスがインバウンズで静止し、誰も取ろうとしない場合、ボールはデッドとなり、デッド ボールの地点でパスをしたチームに所属する。
 - b. ファンブル:ファンブルがインバウンズで静止し、誰も取ろうとしない場合:
 1. ファンブルした地点より前方で静止した場合、ボールはファンブルした地点でファンブルしたチームに所属する。
 2. ファンブルした地点より手前で静止した場合、ボールはデッド ボールの地点でファンブルしたチームに所属する。
- 7-3-11罰則(変更) プレビアス スポットから5ヤード、かつロス オブ ダウン。[S16およびS9]
- 7-3-12 (変更) フォワード パス プレー中のBチームによるパーソナル ファウルおよびスポーツマンらしからぬ行為
正当なフォワード パスが成功したプレー中のBチームによるパーソナル ファウルおよびスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則は、最後のラン エンドがニュートラル ゾーンを越えている場合、最後のラン エンドから施行する。パスが不成功となった場合あるいはインターセプトされた場合、またはダウン中にチーム確保の変更があった場合には、罰則はプレビアス スポットから施行する。(参照: 9-1罰則)(A. R. 7-3-12- I およびA. R. 9-1-2-III)
- 8-2-1-c (変更) ファンブルまたはバックワード パスを相手のエンド ゾーンでリカバー、キャッチまたはインターセプトするか、もしくはこれらに認定された場合。(例外: 7-2-2-a例外2、7-2-5-bおよび8-3-2-d-5)(A. R. 8-2-1-X)
- 9-1 罰則 (変更) パーソナル ファウル。15ヤード。デッド ボール中の反則の場合、サクシーディングスポットから15ヤード。Bチームの反則に対しては、他の公式規則に抵触しない限り自動的に第1ダウン。Aチームのライブ ボール中の反則でニュートラル ゾーンの手前の反則に対してはプレビアス スポットから施行する。Aチームのゴール ライン手前でライブ ボール中の反則に対してはセイフティである。[S7、S24、S25、S26、S28、S34、S38、S39、S40、S41、S45またはS46]ひどい反則

者は退場または資格没収。[S47]

フリーキックプレーまたはスクリメージキックプレー中のAチームの反則：プレビースポットから施行。フリーキックプレーまたはニュートラルゾーンを越えたスクリメージキックプレー（フィールドゴールプレーを除く）中の反則は、プレー後のデッドボールがBチームに所属する地点からの施行も、Bチームが選択できる。（参照：6-1-8 および6-3-13）

正当なフォワードパスプレー中のBチームのパーソナルファウル：最後のランエンドがニュートラルゾーンを越え、かつそのダウン中にボールのチーム確保の変更がない場合、罰則は最後のランエンドから施行する。パスが不成功、インターセプト、あるいはダウン中にチーム確保の変更があった場合、罰則はプレビースポットから施行する。（参照：7-3-12および10-2-2-e）

9-1-3 (変更) すべてのプレーヤーは、ターゲティングしてヘルメットのクラウンで相手に強力な接触をしてはならない。「ヘルメットのクラウン」とは、ヘルメットの上部、すなわちヘルメットの頂点から半径6インチ(15cm)の円形の部分と定義される。この反則には、下記注1に示す、ターゲティングと判断されるインディケーターが少なくとも1つ以上伴っている必要がある。疑わしい場合は、反則である。（参照：9-6）(A. R. 9-1-3- I)

9-1-4 注2 (変更) 無防備なプレーヤー：(参照：2-27-14)疑わしい場合、プレーヤーは無防備である。

無防備なプレーヤーは、次に示すような例を含むが、これらに限定されるものではない。

- ・ ボールを投げようとしている、あるいは投げ終わった直後のプレーヤー。これにはパスの姿勢でダウンフィールドを注視しているオフェンスのプレーヤーを含む。
- ・ フォワードパスをキャッチしようとしているレシーバー、またはバックワードパスをレシーブする位置にいるレシーバー、あるいはパスをキャッチした後、自らを防御するのに十分な時間が経過していない、または明確にボールキャリアとなっていないパスレシーバー

<以下、省略>

9-1-3および9-1-4 罰則 (変更)

<前文省略>

インスタントリプレーが使われる試合の場合：

資格没収はインスタントリプレーによってレビューされる。（参照：12-3-5）

インスタントリプレー オフィシャルが資格没収を変更した場合：

ターゲティングの反則が同じプレーヤーによる他のパーソナルファウルの反則を伴っていない場合、ターゲティングによる15ヤードの罰則は施行されない。そのプレーヤーがターゲティングと同時に他のパーソナルファウルの反則を犯している場合、そのパーソナルファウルに対する罰則が、公式規則に従って施行される。（A. R. 9-1-4-VII, VIII）

インスタントリプレーが使われる試合の後半に発生したターゲティングによる資格没収：

競技団体内の合意、あるいは異なる競技団体に所属するチーム間の試合では試合前に両チームの合意があれば、後半に発生したターゲティングによる資格没収について、以下の対応ができる。当該チームが所属する競技団体は、当該試合担当の審判組織にビデオを提供し、その審判組織のビデオによる検証によって、次の試合の資格没収の妥当性を確認することができる。その検証の結果、審判組織がそのプレーヤーを資格没収とすべきではなかったと判断すれば、その場合のみ、競技団体は出場停止を取り消すことができる。もし審判組織が資格没収の判定を支持すれば、次の試合の出場停止は残される。

<以下、省略>

9-1-6-a (変更) チーム確保変更前のAチームのプレーヤー:

1. 最初の位置が完全にタックル ボックスの中に入っているラインマンは、スナップ直後のチャージで、タックル ボックスの中で正当に腰より下へのブロックをしてもよい。このとき、ニュートラル ゾーンから1ヤード越えた地点まででブロックを開始したときは、タックル ボックスの中とみなす。スナップ直後のチャージの後、これらのラインマンはボールがタックル ボックスから出るまでの間、タックル ボックスの中で最初の接触が相手の正面の方向からの場合に限り、腰より下へのブロックをしてもよい。
2. スナップ時にタックル ボックスの中で静止しているバックはボールがタックル ボックスから出るまでの間、タックル ボックスの中で最初の接触が相手の正面の方向からの場合に限り、腰より下へのブロックをしてもよい。「正面の方向から」とは、ブロックを受けるプレーヤーが注意を払うことができる前面で、時計の文字盤の「10時から2時」で表わされる範囲からと定義される。
3. その他のすべてのAチームのプレーヤーは、腰より下へのブロックをしてはならない。

9-1-6-b (変更) チーム確保変更前のBチームのプレーヤー:

1. タックル ボックスをスクリメージ ラインから1ヤード越えた地点まで拡張させた領域に入っていて、スナップ時に静止しているBチームのプレーヤーは、スナップ直後のチャージで、タックル ボックスの中で正当に腰より下へのブロックをしてもよい。
2. 他のすべてのBチームのプレーヤーは、ボール キャリアに対する場合を除き、腰より下へのブロックをしてはならない。

9-1-11-d (変更) キックまたは明白に予想されるキックをブロックまたはキャッチしようとするディフェンスのプレーヤーは、次のことを行ってはならない。:

1. 味方のプレーヤーの上に足を置く、飛び乗るまたは立つこと。
2. 味方の上に(両)手を置くことで、高く上がること。
3. 味方のプレーヤーによって持ち上げられること、高く支えられること、後ろから押し込まれること、押されること。

9-1-16-a-4(変更) この公式規則によるキッカーの保護は、次の場合に終了する。

- (a) 自分の身体のバランスが戻るのに十分な時間の経過後(A. R. 9-1-16-IV)。
- (b) キッカーがキックの前に、タックル ボックス(参照:2-34)の外側にボールを持ち出した後、あるいはタックル ボックスの外側でボールを確保した後。

9-2-1-a-1 罰則 (変更)

スポーツマンらしからぬ行為。プレーヤーによるライブ ボール中の反則:15ヤード。[S27]
プレーヤー以外のライブ ボール中の反則、およびすべてのデッド ボール中の反則:サクシーディング スポットから15ヤード。[S7およびS27]
Bチームのライブ ボール中およびデッド ボール中の反則に対して、他の公式規則に抵触しない限り自動的に第1ダウン。ひどい反則者がプレーヤーまたは交代選手の場合は退場。[S47]
フリー キック プレーまたはスクリメージ キック プレー中のAチームの反則:プレビアス スポットから、あるいは、フリー キック プレーまたはニュートラル ゾーンを越えたスクリメージ キック

プレー(フィールド ゴール プレーを除く)中の場合は、プレー後のデッド ボールがBチームに所属する地点から施行する。(参照:6-1-8および6-3-13)

正当なフォワード パス プレー中のBチームの反則:最後のラン エンドがニュートラル ゾーンを越え、かつそのダウン中にボールのチーム確保の変更がない場合、罰則は最後のラン エンドから施行する。パスが不成功、インターセプト、あるいはダウン中にチーム確保の変更があった場合、罰則はプレビアス スポットから施行する。(参照:7-3-12および10-2-2-e)

9-3-4 [c~e] 罰則 (変更)

10ヤード。他の公式規則に抵触しない限り自動的に第1ダウン。[S42]

10-2-2-e (変更) 正当なフォワード パス プレー中のBチームの反則

最後のラン エンドがニュートラル ゾーンを越え、かつそのダウン中にボールのチーム確保の変更がない場合、Bチームのパーソナル ファウルおよびスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則は最後のラン エンドから施行する。(参照:7-3-12)(A. R. 7-3-12- I およびA. R. 9-1-2-III)

10-2-4 (変更) 正当なフリー キック プレーまたはボールがニュートラル ゾーンを越えたスクリメージ キック プレー(フィールド ゴールの試みを除く)中の、キックをキャッチする機会の妨害(参照:6-4)の反則を除くキック チームのすべての反則に対する罰則は、公式規則により、施行基準点としてのプレビアススポット(例外:Aチームのエンド ゾーンでの反則に対する罰則の選択はセーフティ)、またはプレー後のデッド ボールがBチームに所属する地点からの施行をBチームが選択する。(参照:6-1-8および6-3-13)

12-3 (変更) レビュー可能なプレー

原則として、ゴール ラインに対するボールの位置は、常にインスタント リプレーによるレビューが可能である。

12-3-2-e (変更) パスが、フォワードかバックワードかの判定。

1. パスがフォワード パスで不成功と判定され、ボールがアウト オブ バウンズとなった場合、ボールがルースとなった直後の継続した行為によって明確にリカバーされた場合、あるいはフィールド上の審判員がリカバーを確認した場合のみ、そのプレーはレビュー可能となる。どちらのチームがリカバーしたか、あるいはボールがアウト オブ バウンズとなったことを示す議論の余地のないビデオによる証拠をリプレー オフィシャルが確認できなければ、パス不成功というフィールド上の判定のまま(スタンド)とする。
2. フォワード パス不成功の判定をリプレー オフィシャルが変更(オーバーターン)し、ボールはリカバーされたとする場合、リカバーされた地点でリカバーしたチームのボールとなり、いかなる前進も無効となる。味方の上に(両)手を置くことで、高く上がること。

12-3-2-f (変更) ボールが明らかにフィールド オブ プレー内またはエンド ゾーンにあり、フィールド上でインテンショナル グラウンディングの判定があった場合のボールの位置。

12-3-4-g (新規) フェア キャッチ シグナルを出した後のレシーブ チームの前進。

- 12-3-6-b (変更) 第2節の残り時間2分未満、あるいは第4節の残り時間2分未満で、レビューの結果判定が変更(オーバーターン)された場合のゲーム クロックの修正。
- 12-3-6-d-3(変更) 第4節に限り、ゲーム クロックの時間を戻す際の得点差が8点以下であること。(タッチダウンの後、トライのダウンで起こり得るすべての結果を考慮しなければならない)
- 12-3-8-a (変更) 身体のすべておよびボールが、ニュートラル ゾーンを越えているまたは越えたことがあるプレーヤーによって行われたフォワード パスまたは前方への手渡し。あるいはボールの確保の変更後に行われたフォワード パスまたは前方への手渡し。(参照:12-3-4-cおよびd)
- 12-3-8-e (変更) アウト オブ バウンズに出た当初は有資格であったレシーバー、あるいは当初無資格であったプレーヤーによるフォワード パスへの不正なタッチ。(参照:12-3-2-bおよび12-3-3-h)
- 12-4-2-c (新規) 試合を担当している審判員、インスタント リプレー担当者、および審判組織の特定の関係者に限定された(セキュリティが保証された)無線装置(いわゆるO2Oシステム)の使用は認められる。
- 12-5-1-b-4(変更) 試合が中断され、リプレー オフィシャルによってすでに決定された判定に対して、ヘッドコーチはチャレンジを要求することはできない。
ただし同じプレーであっても、当初のレビューの中に含まれていない別の要素に対して、ヘッドコーチはチャレンジを要求することができる。
- 12-6-1-e (変更) 判定が変更(オーバーターン)された場合、リプレー オフィシャルは正しい状況でプレーを再開するために必要なすべての情報(次のダウン、距離、地点、ボールの左右の位置、計時開始/試合時間の修正)をレフリーに提供する。フィールド上の判定を変更するために必要となるすべての情報をリプレー オフィシャルが持っている場合、訂正プロセスを円滑に進めるために審判員間の無線装置(O2Oシステム)を利用することができる。

【以下は、公式規則解説書の追加・変更項目である。】

第7条 不正な装具

A. R. 1-4-7

- VI. プレーヤーが自分のシューズに広告、メッセージや文字を書き、またはペイントし、試合中にそれを着用することを計画している。判定:公式規則により許されない。付録E、11 項では、ユニフォームおよびその他のすべての衣類に面積2.25 平方インチを越えない製造業者か供給者の通常のラベルまたは商標を1個だけ着けることが認められている。アスリートの声を届けるため、競技規則委員会は、記念章のサイズを最大16 平方インチに拡大し、プレーヤーが人物、出来事、社会正義などを祝賀し、記念できることとした(参照:1-4-6-d)。さらに、チームまたは競技団体が認めたアスリートは、故人、災害またはその他の事象の追悼を意図した名称/語句を、ジャージ/ユニフォームの背面、これまで選手名を掲示していた場所に着けることができる。名称/語句は、チームのプレーヤーごとに異なってよい。

- VII. 試合前のウォームアップで、プレーヤーがフィールドに入った。(a) 番号が容易に見える、広告入りのTシャツを着用していた、(b) 番号が容易に見える、社会正義のメッセージの入ったTシャツを着用していた、(c) 番号が容易に見えないTシャツを着用していた。判定：(a) ユニフォームや衣類に広告を着けることは禁じられており、このTシャツは許されない。(例外：1-4-5に規定されるポストシーズン ゲーム) (b) は正当。(c) 公式規則3-1-1-cにより許されない。(a)と(c)に距離罰則はないが、そのプレーヤーはフィールドから出なければならない。審判員は、ヘッド コーチ、用具担当者または運営責任者に適切な処置を求めることが望ましい。

第11条 禁止されるフィールド上の装備

A. R. 1-4-11

- I. ホーム チームのヘッド コーチは試合会場へ行けないため、テレビ放送を見ながら(a) 携帯電話でオフェンス コーディネーターへプレーをコールし、(b) ウェブ会議システム(Zoom、マイクロソフトTeamsなど)でロッカールームのチームと通話しようとした。判定：公式規則1-4-11-bは、プレス ボックスとチーム エリアの間を結ぶ音声での伝達手段のみを特別に認めている。したがって、(a) このコーチはプレス ボックスまたはサイドラインへコーチングを目的とした伝達は許されない。(b) 公式規則1-4-11は、コーチングを目的としてコンピュータ等の機器を使用することを禁止しており、これには試合中のチームと行うすべてのコミュニケーション ツールを含む。したがって、(b) に記載の、チームとのあらゆる音声通信は認められない。この禁止事項は、予定されたキックオフ時刻の90 分前に始まり、節の間の時間も含み、レフリーが試合終了を宣告するまでとなる。

第3条 キャッチ、インターセプト、リカバー

A. R. 2-4-3

- IV. レシーバーA88はサイドライン付近で、正当なフォワード パスをとろうと身体を伸ばしていた。A88はパスのキャッチを試みながら、身体が地面に倒れていった。(a) A88はボールをしっかりと支配した後に、インバウンズにつま先をつけた。その後、ボールのしっかりとした支配を継続したまま、アウト オブ バウンズの地面に倒れていった。(b) A88はボールをしっかりと支配した後に、インバウンズにつま先をつけた。その後、足が地面を離れて空中にいる間にボールをふらつかせ、アウト オブ バウンズに着く前に再度しっかりとボールを支配した。アウト オブ バウンズに着地したときにはしっかりとボールを支配していて、その後も支配を継続した。(c) A88はボールをしっかりと支配した後に、インバウンズにつま先をつけた。その後、アウト オブ バウンズに倒れていき、地面についたときボールの支配を失った。判定：(a) A88によるキャッチ。(b) パス不成功。(c) パス不成功。

第12条 資格を没収されたプレーヤーと退場となったプレーヤー

A. R. 2-27-12

- III. 第3クォーター後半、ホーム チームのプレーヤー21 番がターゲティングのため資格没収となり、正当にチーム エリアにとどまっていた。第3クォーター終了から第4クォーター開始までの間に、ホーム チームの21番は、チーム エリアでスポーツマンらしからぬ行為の反則をした。判定：デッド ボール中の反則。サクシーディング スポットから15ヤードの罰則。Bチームによる反則の場合は、他の公式規則に抵触しない限り自動的に第1ダウン。21 番は退場となりプレー場内から退出しなければならない。資格没収となった後、スポーツマンらしからぬ行為の反則をしたプレーヤーは、自動的に退場となる。

第2条 計時の開始と停止

A. R. 3-3-2

- VII. Aチームの35ヤード ラインからAチームがオンサイド キックを蹴った。ボールが10ヤード進んだ後、(a) B21が

有効なフェア キャッチ シグナルを出し、ボールをキャッチした。(b) A80が最初にボールにタッチした後、正当にボールをキャッチ、もしくはリカバーした。(c) B21がボールをキャッチまたはリカバーした直後にグラウンドに倒れた。(d) B21がボールをリカバーする際に膝がグラウンドについていた。判定:いずれのケースもボールデッドと宣告され、(a)ゲーム クロックの計時は進まない。(b)ゲーム クロックの計時は進まない。(c)審判員はボールが正当にタッチされたときに計時開始のシグナルを出し、ボールがデッドとなったときに計時を止めるシグナルを出す。(参照:3-3-2-a) (d)ゲーム クロックの計時は進まない。

第3条 ボールがデッドを宣告される場合

A. R. 4-1-3

IV. Bチームの40ヤード ラインで第3ダウン、10ヤード。クォーターバックのA12は、スナップを受けると右へロールアウトしたが空いているレシーバーが見つからなかったため、前方へ向きを変えて走り出した。その後、シリーズ獲得線を越えたBチームの27ヤードラインで、足からスライディングを開始したかのように足取りを変えたが、体勢を立て直すとそのまま走り続けてタッチダウンとなった。判定:ライブ ボールは、A12が足からスライディングを開始すると類似した動きをしたり、装ったりした地点でデッドとなる。審判員は、ホイッスルを鳴らしてボール デッドを宣告しなければならない。Bチームの27ヤード ラインからAチームの第1ダウン、10ヤード。フェイク スライド(スライディングを装うこと)は、公式規則12-3-3に規定されるレビュー可能なプレーではない。

第3条 前進地点

A. R. 5-1-3

- I. 空中にいるA1が、相手チームのエンド ゾーンの1ヤード内側で正当なフォワード パスをしっかりと支配した。A1がボールをしっかりと支配したとき、(a)B1に当たられ、1ヤード ラインのグラウンドに膝から着地し、ボールのしっかりとした支配を継続していた。(b)B1に当たられ、1ヤード ラインのグラウンドに両足で着地し、ボールのしっかりとした支配を継続していた。判定:(a)、(b)ともタッチダウン。(参照:5-1-3-a例外2および8-2-1-b)
- II. レシーバーA88はBチームのエンド ゾーンの奥をまわるパス コースを走り、QBであるA12の方向へ戻ってきた。A12はA88にパスを投げ、A88は飛び上がってBチームのエンド ゾーンの1ヤード内側で正当なフォワード パスをしっかりと支配した。空中にいるA88はBチームのプレーヤーにタッチされず、ボールのしっかりとした支配を継続して1ヤードラインのグラウンドに(a)膝から着地した。(b)両足で着地した。A88はバランスを取り戻し、走ってBチームの5ヤード ラインでダウンした。判定:タッチダウンではない。(a)ボール デッドが宣告された1ヤード ラインで、Aチームのボール。(b)ボール デッドが宣告された5ヤード ラインで、Aチームのボール。

第4条 不正なブロックまたは接触

A. R. 6-5-4

- I. 有効なあるいは無効なフェア キャッチのシグナルを出したB1はパントにタッチしなかった。タッチされていないボールがフィールド オブ プレーでルールである間に、(a)ニュートラル ゾーンを越えたフィールド オブ プレーで、B1が相手をブロックした。(b)Bチームのエンド ゾーンで、B1が相手をブロックした。判定:(a)ボールがニュートラル ゾーンを越え、ダウンの終了時にBチームがボールを確保していた場合には、レシーブ チームはポストスクリメージ キックの施行地点から10ヤードの罰則。(b)セイフティ。フィールド ゴールが不成功になった場合も、同様の判定。

- II. 50ヤード ラインでフェア キャッチのシグナルを出したB1は、パントにタッチしなかった。ボールがBチームの45ヤード ラインのグラウンド上を転がっているときに、B1はボールに向かうために手を使って相手を払いのけた。ボールはBチームが確保しデッドが宣告された。 判定: 罰則—ポストスクリメージ キックの施行で10ヤード。Bチームのボール。(参照: 10-2-3)

第11条 不正なタッチ

A. R. 7-3-11

- II. Aチームは自陣10ヤード ラインでスナップし、A10は後退し無資格レシーバーA70にフォワード パスを投げた。そのとき、A70は自陣のエンド ゾーンにいたが、(a)パスをキャッチしようとしてボールにタッチしたが、パスは不成功となった。(b)キャッチしてエンド ゾーンで倒された。(c)キャッチし、自己の3ヤード ラインまで前進して倒された。 判定: (a)Bチームはロス オブ ダウンを含むプレビアス スポットから5ヤードの罰則を選択でき、ダウンを更新する。(b)Aチームによる原動力のためにボールはエンド ゾーンでデッドとなった。したがって、Bチームはセーフティか、ロス オブ ダウンを伴うプレビアス スポットからの罰則のいずれかを選択できる。(c)プレビアス スポットから5ヤードの罰則、かつロス オブ ダウン。罰則を辞退すれば、ダウンは更新される。Bチームにとっては罰則を選択するよりも、ボールデッドの地点をとる方が有利である。[注: (a)、(b)、(c)とも、Aチームの有資格レシーバーの位置またはボールを投げたときのA10の位置によっては、インテンショナル グラウンディングになりうる。(参照: 10-1-1-b) インテンショナル グラウンディングが適用されれば、不正なタッチは適用されない。]

第12条 正当なフォワード パス プレー中のBチームによるパーソナル ファウルおよびスポーツマンらしからぬ行為

A. R. 7-3-12

- II. Aチームの20ヤード ラインからの攻撃。A11からA88へのフォワード パスが投げられている間に、B88がスポーツマンらしからぬ行為でフラッグが出された。(a)Aチームの30ヤード ラインへの10ヤードのパスが成功し、そこでA88はタックルされた。(b)パス失敗、あるいはインターセプトされた。判定: (a)罰則はラン エンドすなわちAチームの30ヤード ラインから施行され、Aチームの45ヤード ラインからAチームの第1ダウン、10ヤード。(b)罰則はプレビアス スポットから施行され、Aチームの35ヤード ラインからAチームの第1ダウン、10ヤード。(参照: 9-2-1-a-1 罰則)

第1条 得点となる場合

A. R. 8-2-1

- X. ボール キャリアA33はBチームのゴール ラインに向かって走っていた。彼はボールをゴール前の1ヤード ラインで落としたが、タッチダウンだと思い、エンド ゾーンの中を走り抜け、自分のチーム エリアに戻った。審判員は誰もタッチダウンのシグナルを出さなかった。ファンブルされたボールは、ゴールラインのすぐ外側のグラウンドに当たり、エンド ゾーン内を転がり、誰もリカバーしようとすることなく静止し、ボール デッドが宣告された。判定: インバウンズにおいてボールがファンブルし、ファンブル地点の前方においていかなるプレーヤーも確保を試みない場合はファンブルした地点で、最後に確保していたチームに所属する。Bチームの1ヤード ラインでAチームのボール。

第1条 得点となる場合

A. R. 8-3-1

- II. Aチームのトライのキックがブロックされ、ニュートラル ゾーンを越えた地点では、誰もボールにタッチしていない状態で、B19がエンド ゾーンの空中になるキックをマフした。そのボールをA66がエンド ゾーンでリカバーした。判定: Aチームに2点が与えられる。

第1条 得点となる場合

A. R. 8-5-1

- XI. Bチームの8ヤード ラインで、第4ダウン、ゴールまで。A44はBチームの5ヤード ラインで相手に接触を受け、ボールをファンブルした。Bチームの3ヤード ラインでころがっているボールをB54が自陣のエンド ゾーンへバツティングした。ころがっているボールに気づいたA88はエンド ゾーンでリカバーした。 判定:セーフティ。Aチームに2点が与えられる。B54による自陣方向へのバツティングは反則ではない。(参照:9-4-1-c)しかし、B54はボールに新しい原動力を与えたことになり、エンド ゾーンにボールを入れた責任がある。(参照:8-7-2-b-1)A88がボールをリカバーした時、第4ダウンのファンブルに関する公式規則によって、ボール デッドが宣告される。(参照:7-2-2-a 例外)エンド ゾーン内で公式規則によりボール デッドとなり、エンド ゾーンにボールを入れた責任はB54にあるので、判定はセーフティとなる。B54はボールがエンド ゾーンにあることの責任が課される。(参照:8-5-1-a)セーフティに関する公式規則と第4ダウンのファンブルに関する公式規則がここでは対立しているように見えるが、セーフティに関する公式規則の精神および意図は極めて明確であり、このプレーでは第4ダウンのファンブルに関する公式規則よりも優先される。第4ダウンのファンブルに関する公式規則は、第4ダウンでのファンブルをAチームがリカバーしたときの一般的な処理について記したものである。

第2条 相手を打つ反則、トリッピング

A. R. 9-1-2

- IV Aチームの25ヤード ラインで第1ダウン、10ヤード。ディフェンスのB21はプレス カバーのためA88の正面に位置し、スナップ直後にワイドアウトA88のフェイスマスクに打撃を与え、A88は当初のランニング ルートを断念した。A12はサックされ、7ヤードのロスとなった。 判定:A88に打撃を与えたことによるB21のパーソナル フェウル。Aチームの40ヤード ラインで第1ダウン、10ヤード。このような行為の場合、相手の顔、ヘルメット(フェイスマスクを含む)または首への「連続的な」接触でなくても公式規則9-1-8-aの反則となる。

第3条 ターゲティングしてヘルメットのクラウンで強力な接触をすること

A. R. 9-1-3

- II. ホーム チームの21 番は、ヘルメットのクラウンでのターゲティングの反則により、第3クォータ終盤に資格没収となった。これは21 番のシーズン3度目のターゲティングの反則であった。 判定:ターゲティングの反則で15ヤードの罰則を科し、21番は資格没収。21 番は試合の最後までチーム エリアに留まることができる。同一プレーヤーが同一シーズンに3回目のターゲティングの反則をコールされた場合、その試合の資格没収に加えて、そのチームが行う次の試合も出場停止となる。出場停止の間、このプレーヤーはチームエリアおよびプレー場内には行かない。注:試合の後半におけるターゲティングの反則は、競技団体内の合意があれば、ビデオによる検証を要求できる。

第4条 ターゲティングして無防備なプレーヤーの首または頭部へ強力な接触をすること

A. R. 9-1-4

- II. ボール キャリアA20がスウィープ プレーでエンドの横を回り縦に上がるとき、A20は頭を下げ、彼をタックルしようとしたディフェンス エンドB89と接触した。B89は頭を上げていて、両プレーヤーのヘルメット同士がぶつかった。 判定:反則ではない。A20もB89も、どちらも無防備なプレーヤーではなく、またどちらも公式規則9-1-3が規定するターゲティングの反則の行為ではない。
- VI. ボール キャリアA33は、数ヤード前進し、2人のディフェンスのプレーヤーにつかまった。彼の前進は止まり、押し戻されたが、ボール デッドは宣言されていない。ラインバッカーB55はしゃがみ込んだ体勢から前方へ突き上げて、前腕でA33のヘルメットの側部に当たった。 判定:B55のターゲティングの反則。15ヤードの

罰則。B55は資格を没収される。A33は相手につかまれて前進が止まっていたため、無防備なプレーヤーとみなされる。(参照:2-27-14)

第6条 腰より下へのブロック

A. R. 9-1-6

- I. Aチームの40ヤード ラインで第1ダウン、10ヤード。バックA44は右タックルの後ろに位置した。A44の左足は右タックルの外側の足の内側にあった。スナップ時にA44は、フォーメーションの後ろを横切り、B77を横から腰より下へのブロックをした。ブロックされたとき、B77はタックル ボックスの中で、オフェンスのバックフィールドに1ヤード入っていた。プレー中にA33 は12ヤード進んだ。判定:A44のブロックは、正面からのブロックではないので、腰より下への不正なブロック。タックル ボックスの中で静止したバックは、ボールがタックル ボックスから外に出るまでは、最初の接触が正面からであれば、タックル ボックスの中で腰より下へのブロックができる。罰則は15ヤード。プレビアス スポットから科す。Aチームの25ヤード ラインで第1ダウン、25ヤード。
- II. Aチームの40ヤード ラインで第1ダウン、10ヤード。バックA44は、右ガードの後方4ヤードに静止していた。スナップ後、クォーターバックA12はタックル ボックスの中を奥深くドロップ バックし、タックル ボックスの中でダウンフィールドを見渡した。ラインバッカーB55はブリッツし、左ガードと左タックルの間を抜けた。A44はフォーメーションの左側に動き、Aチームの36ヤード ラインでB55をブロックした。このブロックは正面からであった。ブロック後、A12のパスはA88に成功し15ヤード前進した。判定:このプレーでの反則はない。タックル ボックスの中で静止したバックは、ボールがタックル ボックスの外に出るまでは、最初の接触が相手の正面の方向からであれば、タックル ボックスの中で腰より下へのブロックをしてもよい。A44のブロックは正当。AチームはBチームの45ヤード ラインで第1ダウン、10ヤード。
- IV. ディフェンス エンドB88はタックルA75の肩の外側に位置した。スナップ直後のチャージで、B88はタックル ボックスの中でA75を横方向から腰より下へのブロックをした。判定:腰より下への不正なブロックの反則ではない。
- V. スナップ時にバックA22はタックル ボックスの中で静止していた。スナップ後、A22はタックルとガードの間を進み、B55の正面から腰より下へのブロックをした。最初の接触はニュートラル ゾーンを3ヤード越えていた。判定:腰より下への不正なブロック。ブロックは正面からであるが、ニュートラル ゾーンを越えている。
- VI. Aチームの30ヤード ラインで第3ダウン、7ヤード。ボールは左のハッシュ マークに置かれていた。バックA22は左タックルのフレームから完全に外れてセットしていた。B40はA22をカバーするため外へ移動した。ボールはバックA44にハンドオフされ、A44は右エンド方向にスイープした。プレーが進むのに合わせてB40が動き、A22はB40を追いかけた。Aチームの34ヤード ラインの右のハッシュ マークの外側でA22はB40に追いつき、明らかに正面(10時~2時)から腰より下へのブロックをした。A44はBチームの45ヤード ラインでタックルされた。判定:腰より下への不正なブロック。A22の最初の位置はタックル ボックスの外であったので、A22は正当に腰より下へのブロックをすることはできない。
- VII. Aチームの40ヤード ラインで第1ダウン、10ヤード。A12はスナップを受け、右方向へスイープした。ガードA66はプル アウトシールド ブロッカーになった。プレーが進みAチームの39ヤード ラインで、ラインバッカーB55は、A66の大腿部に正面からブロックした。A12はAチームの48ヤード ラインでアウト オブ バウンズに押し出された。判定:腰より下への不正なブロック。B55はスクリメージ ラインの1ヤード以内で静止していなかったため、腰より下へのブロックはできない。

- VIII. スナップ時にタイト エンドA85はスナッパーから6ヤード離れていた。ボールがタックルボックスから出る前に、A85はタックルB77を横から腰より下へのブロックをした。判定:腰より下への不正なブロック。スナップ時のA85の最初の位置は、タックル ボックスの外であったので、A85は腰より下へのブロックはできない。15ヤードの罰則。
- IX Aチームの45ヤード ラインで第1ダウン、10ヤード。ガードA66はスナッパーの隣に位置していた。スナップ直後A66は、(a)Aチームの46ヤード ラインでノーズ ガードB55をブロックした。(b)Aチームの48ヤード ラインでラインバッカーB33をブロックした。(a)、(b)どちらのブロックも、相手の横からの腰より下へのブロックであった。判定:(a)正当なブロック。A66はタックル ボックスから離れたが、ニュートラル ゾーンを1ヤード越えた最初のブロックは、タックル ボックスの中でのブロックとみなされる。(b)反則。腰より下への不正なブロック。このケースでは、A66はタックル ボックスから離れてロー ブロックを行っている。正当なブロックとするには、腰より下であってはならない。

第16条 ラフティングおよびランニング イントゥ ザ キッカー／ホルダー

A. R. 9-1-16

- VI. Aチームはスクリメージ キック フォーメーションであった。パンターA1は、それたスナップを受けるために2～3歩横に動くか、または頭上を越えたボールをリカバーするために動いた後に、ボールをキックした。その後キックをブロックしそこねたB2がA1に接触した。判定:A1は自らボールをタックル ボックスの外に持ち出したか、タックル ボックスの外側でボールを確保したのでなければ、どちらの場合においても自動的に保護の権利を失うことはない。タックル ボックスの中にいる間は、A1は通常のキックの状況と同様に、キックの規則の保護を受ける。通常のパントの位置で、A1が明らかにキックしようとしているとき、ディフェンスのプレーヤーは、A1がキックをした後によなければならない。

第2条 ひきょうな戦術

A. R. 9-2-2

- VIII. Bチームの40ヤード ラインで第4ダウン、1ヤード。クォーターバックA12はショットガン フォーメーションからセンターのところへ移動し、シグナルを叫びBチームのオフサイドを誘発したが失敗した。プレー クロックが残り10 秒のとき、A12はセンターから離れ、とても大袈裟に両腕をベンチに振りながらサイドラインに向って小走りました。A12がサイドラインに近づき、プレー クロックが0秒となる直前に、ボールはバックのA44に直接スナップされ、A44はB チームの38ヤード ラインまで走った。判定:Aチームの45ヤード ラインでAチームの第4ダウン、16ヤード。A12のスポーツマンらしくない行為。プレビアス スポットから15ヤードの罰則がAチームに科せられる。A12の行為は公式規則9-2-2-bの精神に反する。

第3条 ひきょうな行為

A. R. 9-2-3

- IV. Aチームの25ヤード ラインで、第1ダウン、10ヤード。試合の残り時間は1秒。Aチームは5点差で負けていた。A12はグラウンドの中央部にいたA88にフォワード パスを成功させた。パス キャッチ後、チームは、ボールを正当に確保しながら複数回のバックワード パスを行い前進を続けた。最終的にA21からA44 ヘラトラル パスを投げ、ボールはグラウンドに落ちてリカバーされなかった。ボールがデッドになったと思ったBチームのベンチはフィールドになだれ込み、多くのBチームの登録選手がフィールドにいた。A44はボールをリカバーすると、走り出したがBチームの登録選手に進路を阻まれ、フィールドを横切り、最終的にBチームの30ヤード ラインでB50にタックルされた。判定:プレーヤーおよび審判員以外の交代選手、コーチまたは公式規則の適用を受ける者は、ボールがプレー中にボールまたはプレーヤーに対していかなる妨害もしてはならない。このひき

ような行為は、ライブ ボール中の反則として15ヤードの罰則を科す。レフリーは、得点を与えることを含め、適切と考えるいかなる罰則も科すことができる。

第4条 ディフェンスによるホールディングと手または腕の使用

A. R. 9-3-4

- I. ニュートラル ゾーンを越えた正当なフォワード パスが投げられる前に、ニュートラル ゾーンを越えた位置にいる有資格レシーバーA1をBチームがホールディングした。判定：Bチームのホールディングの反則。罰則—プレビース スポットから10ヤード、自動的に第1ダウン。

- II. Bチームの45ヤード ラインで第3ダウン、15ヤード。クォーターバックA12はドロップ バックして視線をダウンフィールドに向けたが、最初のターゲットであるA88は、Bチームの35ヤード ラインでディフェンスB21によってホールディングされていた。そのため、A12は、チェックダウン レシーバー(セイフティ バルブ)のA44にフォワード パスを投げたが、パスは、Bチームの46ヤード ラインでグラウンドに落下し、不成功となった。判定：Bチームの35ヤード ラインでAチームの第1ダウン、10ヤード。スナップで計時開始。B21のホールディングの反則に対する罰則は、プレビース スポットから10ヤードの施行。自動的に第1ダウン。ディフェンスによるホールディングは自動的に第1ダウンを伴う。

第4条 ポストスクリメージ キックの罰則施行

A. R. 10-2-3

- VII. Aチームの第4ダウン、12ヤード。Aチームの35ヤード ラインでボールがスナップされた。スナップ直後にラインマンB77がガードA66をつかんで片側に引き寄せ、ギャップにラインバッカーB43がキックをブロックしようと割って入った。B44はBチームの25ヤード ラインでキックをキャッチし、Bチームの40ヤード ラインまでリターンしたところでタックルされた。判定：B77のホールディングの反則はキック前に発生したため、ポストスクリメージキックの施行は適用されない。10ヤードの罰則はプレビース スポットから施行される。罰則距離だけではAチームの第1ダウンとはならないが、ディフェンス ホールディングの罰則には自動的な第1ダウンが含まれる。したがって、Aチームの45ヤード ラインでAチームの第1ダウン、10ヤードとなる。

以上